

◆中国 湖南省便り◆

2011年 6月29日

湖南省の環境状況について

湖南省環境保護庁が2010年「湖南省環境状況官報」を公表しました。今回はこの概要について報告したいと思います。

第12期5カ年計画※期間内(2010年～2015年)において、湖南省は総計595億元の資金を投入し、全省各地の重金属汚染の排出総量を2008年比50%低減、および重金属排出企業数を50%削減することを目標にしています。その現状は次のとおりとのことでした。

①水環境について

2009年と比較し、湖南省地表の水質は安定している。

また、省内14の市州の飲用水源地の水質は、水質基準を維持しており安定している。

その内、湘潭市の水質基準に対する到達率は94.5%で、その他の都市の到達率はすべて96%以上である。また、岳陽、張家界、益陽、郴(チン)州、永州と懐化の6つの都市の飲用水源地の水質基準に対する到達率は100%で、引き続き維持することとしている。

省内四大河川の水質は、澧水、資水、沅江、湘江の順で良い。

また、湘江流域の水質は一昨年にある程度改善し、主流の永州、衡陽と株洲の上流河川の大部分の水質は良いとのことである。

②大気環境

2010年、湖南省の工業用排気ガスの排出総量は14,672.8億立方メートルであった。二酸化硫黄の排出量は80.1万トンであり、昨年に比べて1.35%減少した。

また、全域で酸性雨は依然として深刻な問題である。

2005年、湖南省の中で株洲市は、全国の大気環境が悪い都市のトップ10に入っていた。

湖南省環境保護庁では、2010年まで、省内全14の市州の大気環境について全て国家標準を達成させることとしている。

③重金属排出量の削減について

今年3月に湘江流域の重金属の改善案が国家審査を通り、湘江全域で展開する。

湖南省では、第12期5カ年計画の期間中に、湘江沿線の衡陽市の水松(スギ科の中国特有の木)の地域、娄底市(湖南省中部)のすずの鉱山、株洲の清水塘地区などの7大汚染源を重点的に管理することを決定し、また、不法企業の閉鎖、生産能力の低い企業を淘汰していくことなどを計画している。また、927の重金属汚染改善プロジェクトを実施し、595億元を投資して環境改善を行うこととしている。

湖南省はこの5年間の重金属汚染の改善計画として2008年と比較し重金属排出総量を50%減らし、また重金属排出企業を50%減らすこととし、同時に、工業企業の構造調整、生活汚染物の処理、畜産・養殖による汚染処理、車による汚染の予防・対策、工業企業が排出する硫黄分や窒素分の除去、工業企業の廃水の処理、重金属による汚染の予防や対策など、汚染を低減するため工程を提示した。

このように経済が発展するにつれ環境問題も顕著になってきており、政府もその対策に力を入れているようです。しかし、重金属排出企業を半分に減らすといった大胆な計画は中国ならではと思われれます。

※5カ年計画：政府が中期的な重点事業や経済運営のあり方を5年ごとに定める計画。第1次計画は53～57年に実施され、その後は延期や中断もあった。制度として定着したのは81～85年の第6次計画から。計画経済下の細かい生産・投資目標からマクロ的な誘導目標へと重点は徐々に移っている。計画づくりは国家発展改革委員会を中心に2年ほど検討する。開始前年の秋に共産党の中央委員会総会が「政府への提案」の形で基本方針を確認。1年目の3月に開く全国人民代表大会で政府提案を採択する。